

区議会公明党を代表して花川区長に大きく
4点質問します。
1、区議会公明党は、平成26年度予算編成
に関する要望書の中で、平成26年度は「長
生きするならば北区が一番」「子育てするなら
北区が一番」のスコロガンのもと花川区政3
期12年の総仕上げの年になると、申し上げ
ました。平成26年度基本方針の所信内容は、
「ファミリ―世帯の定住化」と「地域のきず
なづくり」を重要課題として取り組んでいく
方向性を示されました。それ以外の全体の基
調は、残念ながら、平成25年度の所信と大
差ない内容の印象になっています。
平成26年度は北区第6期介護保険事業計
画策定にむけスタートし、地域包括ケアス
テム構築への動きが本格的になる予定です。超
高齢社会の中で、中核都市の規模を誇る北区
の動向は全国から注目され、先進モデル都市
になる位置づけを与えられた自治体と思いま
す。

●あらためて平成26年度の所信に込められた区長の決意を伺います。

2、 「人生100年時代の到来 幸齢社会を築くために」

高齢社会という言葉に明るい響きは、正直言っても見あたりません。高齢社会は老後の心配の種を撒き散らしている元凶のように思われ

ていることが、非常に残念です。

しかし、長生きは人類普遍の願いであり夢であつたはずで。2200年以上の昔、中国の絶対権力者、秦の始皇帝が不老不死・長寿の秘薬（秘密の薬）を得るために、あらゆる手段を尽くし長寿の薬を探し求めたと言われていることは、あまりにも有名なことです。

現在、秦の始皇帝が生きていれば、世界の長寿社会を実現し更に、それを伸ばそうと

している日本社会をどう見るのかと思うと興味津々です。絶対権力者の始皇帝が望んでも手に入られなかつた長寿を獲得した日本社

会は、じつは人類の夢を手に入れた素晴らし
い社会なのです。
公明党は高齢者が幸せを実感できる「しあわ
せな年齢」と書いて、幸齢社会の構築をめ
ざします。

「人生100年時代の到来 幸齢社会を築く
ために」4点、質問します。

2の（1）地域包括ケアシステムについて

●長生きするならば北区が一番を目指し、健康
づくりに取り組んでいる北区として、まず区
民の皆様地域包括ケアシステムの姿とその
構築について、わかりやすく具体的にお示し
下さい。

今後、地域包括ケアシステムの理念と重要性
について区民への周知広報活動等に力を注い
でいただきたいと思います。

地域包括ケアシステム構築に向けて大きな課
題は①良質な在宅医療の提供とその体制づく
りであり②効果的な介護予防の実行だと認識

していただきます。

●その「良質な在宅医療の提供とその体制づくり」について区の見解を伺います。

●3年ごとの介護保険事業計画の適切なPDCAサイクルについて質問します。

地域包括ケアシステム構築について2025年を目途とするとの指針が出ています。3年ごとに行われている介護保険事業計画は2025年5月まで4回行われることになっていきます。

すなわち4回の適正なPDCAサイクルを実行しながら地域ごとの地域包括ケアシステムを構築していくと認識していますが、区の見解をお示し下さい。

平成24年に創設した地域密着型の「定期巡回随時対応型訪問介護看護」サービスは、日中・夜間を通じ訪問介護と訪問看護の両方を提供し定期巡回と随時の対応を行うサービスです。このサービスは要介護状態になって、住み慣れた在宅で生活ができる可能性を高めるもので、地域包括ケアシステムの中核

的な役割を担う重要なサービスであります。

●「定期巡回随時対応型訪問介護看護」サービスの推進について質問します。

北区では来年度からそのサービスを提供する事業所が参入することですが、23区の動向を見てみると平成25年12月現在19区で事業所が既に参入しサービスを提供しています。

北区での事業所の参入が遅れ、サービスの普及が進まず大変心配していました。

●地域包括ケアシステムの中核的役割を担うサービスの導入が、立ち遅れた理由を伺います。

また参入事業所数が豊島区・杉並区・足立区・練馬区などの区は3から6事業所が手を挙げています。

●北区では1事業所と伺っていますが、サービスの普及と事業者の導入を保険者として、さらに促進しなければならぬと考えています。すが、区の今後の取り組みについてお答え下さい。

●また、当サービスの重要性について、介護事業者をはじめ医療関係者、ケアマネジャー等の理解を得ながら広く区民・利用者への普及促進に向けて、当該サービスの理解を深めるためのパンフレットの作成・配布およびオンライン等開催の有効的と思われるが、区の見解を伺います。

●地域包括ケアシステムの構築に向けて、高齢者あんしんセンターの役割がますます重要になってきます。来年度から高齢者あんしんセンターは15カ所2つの窓口の体制になるわけですが、職員の人材確保と何よりも職員のスキルアップとその平準化が課題になってきます。責任ある保険者として、高齢者あんしんセンターの諸課題にどのように取り組んでいくのか見解を伺います。

●地域ケア会議について質問します。

以前、視察した和光市の地域ケア会議が厚労省のモデルになっていくようです。

和光市では、地域ケア会議で個別ケースの検

討を行い「実効性のあるケアプラン・サービ
ス計画に練り上げ」自立支援に向けた地域ケ
ア会議を行っていきます。
北区において、地域ケア会議は、個別ケース
の検討を行い介護保険法の自立支援につなげ
ることであると明確に保険者として表明して
もらいたい。
保険者として区の見解を伺います。
●介護職の充足と処遇改善について
2025年に向けて介護従事者が約100万
人不足するとの予想がありますが、今後不足
する介護従事者の確保をどのようにするのか
区の見解を伺います。
●また介護職は仕事も大変、処遇も悪いとの
イメージで社会に定着していきませんが、区とし
て処遇改善について、どのような対応を考え
ていきますか。見解を伺います。
先日、介護予防事業で効果を挙げ全国で注
目されている茨城県の住民参加型「シルバ
リハビリティ体操指導士養成事業」を視察してま

いりました。
茨城県は、ボランティアとして介護予防の知識と体操の普及に取り組み指導士の養成に励み、2017年までに1000人の体操指導者を掲げ、昨年末で約6000人の体操指導士を養成しました。その介護予防の効果は、数字にはつきり表れており、県内のリハビリ体操の指導士が多い市町村ほど軽度の要介護者の割合が減少しています。統計データによると、高齢者100人に対して1人のリハビリ体操の指導士がいれば、確実に軽度の要介護者の減少傾向が起きています。軽度要介護者全体の割合を都道府県別にしてみると、全国で茨城県が最も少ない結果になっています。

茨城県の介護予防の素晴らしい点は、シルバリーハビリ体操を通じて、楽しみながら元気になるようになったお年寄りが、今度はそれを人に教える側に回るようになり、取り組みの輪がどんどん広がっている点です。

すなわち、茨城県の運動は、住民のやる気をうまく引き出し介護予防の効果を実に挙げ、持続的な運動につなげた好事例です。

●紹介しました茨城県の「シルバリーハビリティ操」は、実証データもあり効果的な介護予防体操です。北区においてもよく研究され導入の検討をされては如何でしょうか。

●地域包括ケアシステムの構築は、まず、低所得のお年寄りでも安心して住み続けられる住宅ならびに居室の確保が第一であります。

●その視点から、13団地620戸ある区営住宅のうち小規模住宅へのエシレベルター設置が遅れています。まず、区営住宅のバリアフリー化を促進しなければいけないと考えています。

●区の見解を伺います。

2の(2)地域コミュニティの活性化と人と人とのつながりについて質問します。

2月16日、昨年完成した新町コミュニティ

区には「さくら体操」があるじゃないか！

どと言わないで、区の見解を求めます。

● 地域コミュニティの活性化に地域格差が生
進まないところもあります。
じ始め、コミュニティの形成が様々な理由で
います。が、地域により取り組みの温度差が生
で取り組み、成果も出始めていると認識して
ミユニティの活性化と人材育成に様々な手法
た。このように各地域振興室の圏域で地域コ
と人をつなぐ交流会になったものと感じまし
あり、まさに地域コミュニティの活性化と人
されたチームや各シニアクラブからの参加も
ムがあり、各町会のチーム、各町会長で編成
んセンターの職員チームや地元消防団員チ
参加チームには、新町光陽苑高齢者あんし
会になりました。
わせる。と100名を超える賑やかで楽しい大
で19チームの参加があり、当日の役員を合
運営委員会が企画主催し、1チーム5人編成
リーダーを管理する東田端連合町会の自主管理
行ってきました。この輪投げ交流会は、当ア
イアリーナで開催された「輪投げ交流会」に

じていることは今後、深刻なことであり、区としてどのように対応していくのか見解を伺います。

次に

●地域振興室は従来から地域と区政をつなぐ「橋渡し」の役割を果たして来ました。

超高齢社会を迎えるなかでそのニーズに十分対応できる地域振興室に変わらなくてははいけません。また災害時には防災拠点として充分役割を果たす地域振興室にならなくてははいけません。

地域振興室の役割の見直しについて区の見解を伺います

●北区公共施設白書によると、地域振興室のトータルコスト約6億円の84%が人件費になっています。地域振興室の3名の職員配置が適正かどうかについて、区の見解を伺います。

●今後、地域振興室と高齢者あんしんセンターの緊密な連携体制の構築が望まれますが、

区としてどのような連携強化を考えているのか見解を伺います。

2の(3)人生100年時代の生涯学習について質問します。

今、図書館が高齢者の居場所として注目され、図書館の新聞、週間雑誌、趣味の月刊誌などのコーナーで、くつろぎながら閲覧している高齢者が多いことに気がつくでしょう。高齢者の中にも、いわゆる働き盛りの人たちと同等か、それ以上の気力・体力や経済力を有している人たちの存在、すなわち団塊の世代が目立ってきています。団塊の世代は、地域にとつて「人材の宝庫」であり、地域社会を活力あるものにしていく貴重な人材資源であると考えられます。また、今まで数々の流行を作り出してきたこの世代は、後に続く世代に、「新たなシニア層」のモデルを示すことを期待されています。

●生涯学習の拠点になる図書館の役割拡充についで質問します。

団塊の世代が65歳以上を迎えるなか、生涯学習支援策を考えるにあたって、必要な支援の取り組みを新たに行っていく必要があると考えられます。

団塊世代の要求に充分応じられる生涯学習の拠点にふさわしい図書館の役割拡充について、区の見解を伺います。

●地区図書館の充実と整備について質問します。

公立図書館は、身近な地域の知の拠点として、だれもが利用しやすい施設としての機能を果たして来ました。その公立図書館も指定管理者制度等の導入により、時代状況の変化に対応しそのあり方を変えようとしています。今後、時代状況の変化に対応するため15カ所の地区図書館の充実と再編が考えられますが、区の見解を伺います。

●生涯学習所管課の区長部局への移管について生涯学習所管課の教育委員会からの移管について

いては、以前から教育に関わる事業については、教育部局に残されることは当然とし、生涯学習の中でとりわけ地域との関わりを持っていく事業については、区長部局へ移管してはどうかと提案してきました。あらためて本日、移管するメリットを2点述べ区長部局への移管を求めます。メリットその1、関係各課との横断的連携が図りやすくなり、総合的なまちづくりの観点から生涯学習を推進していく体制が整えられます。メリットその2、地域での人材発掘がより進まれることが期待できます。教育長の以上2点のメリットを述べました。教育長の見解を伺います。2の(4)元気高齢者の雇用就労等について質問します。最近の調査によると日本人の60歳時点の平均余命は、男性が約23年、女性が約28年となっていています。定年を迎える60歳は、

「人生100年時代」を迎えようとしている
現在、その通過点に過ぎなくなっています。
2013年60歳以上の男女に何歳ぐらい
まで働きたいか調査したところ、60歳以上
の約4割は働けるうちは、いつまでも働きた
いと回答し、約7割の方は少なくとも70歳
まで働きたいと答えています。
そこで厚生労働省は、昨年65歳までの雇用
確保措置が完了したことを受け、さらに70
歳までの雇用確保を推奨しています。
平成20年に「70歳まで働ける企業」の普
及・促進を図るために、**厚生労働省が応募で
つくったシンボルマークとキャッチフレーズ
がこれです。**
キャッチフレーズは「70歳まで働ける私
も企業もいきいき元気」
●このシンボルマークとキャッチフレーズの
普及促進を、今後どのように取り組んでいか
れるのか北区を取り組みを伺います。
高齢者の就労意識、就労率の高い長野県の

平均寿命が日本一であることは有名です。さらに健康寿命日本一を目指している長野県の1人当たりの老人医療費の低さは全国トップレベルです。70歳まで働ける企業の普及促進を勧め、若年者雇用とのバランスを考慮に入れ高齢者の雇用機会を積極的に確保することとは「長生きするならば北区が一番」をめざしている北区にとって非常に大事なことです。●そこで質問します。北区のこれまでの高齢者就労について、今までの取り組みと今後の地元企業や関係団体に対して、高齢者の雇用についてどのよう to 啓発し就労機会拡大を図っていくかお聞きします。●次に、シルバー人材センターの機能拡大について質問します。団塊世代の退職で専門性の高い経験・能力の豊かな人材が地域にデビューを果たした現在、シルバー人材センターの機能の見直しと拡大が求められています。① 事業者への積極的な働きかけで業務範囲の

拡大に努め、就労を希望する高齢者のニーズに添えていくべきである。

② そのためにも請負中心の業務から、脱皮し幹旋、派遣業務への拡大が必要です。

③ シルバー登録会員の技能情報や有資格の内容容などの情報をデータベース化し、それを充分活用し就労拡大や就労のミスマッチングを解消すべきです。

以上3点については、今まで繰り返し、我が党が求めてきたところです。

区の見解をお聞きします。前向きな答弁を北区から発信し高齢社会を豊にしてください。

3、「北区のブランドイメージを高めるために5点質問します。

3の（1）イメージ戦略の評価について北区は平成8年にイメージ戦略ビジョンを作成し、アンバサダー制度、内田康夫ミステリー文学賞など、北区の魅力を区内外に発信してきました。

● 来年度予算で、イメージ戦略ビジョンの中核的な存在を担ってきたアンバサダー制度のイベントが見直し予定ですが、その見直し過程がよく見えてきません。また、そのことはアンバサダー制度自体に何らかの影響を与え、制度の見直しの検討が出てくるのですか。区の見解を伺います。

● 次に、イメージ戦略ビジョンの事務事業評価は実施されていますが、この際、①北区イメージ戦略についてPDCAサイクル手法のもと適切なチェック評価とアクション||改善を実施し、②シティプロモーションという新しい経営理念を取り入れていくべきと考えますが、2点について区の見解を伺います。

3の(2)北区がめざす観光振興について質問します。

昨年12月20日、日本を訪れた外国人客が初の100万人の大台を突破し、政府は才リニック・パラリンピック開催の2020

年までに「おもてなし」をキーワードに訪日外国人旅行者を2000万人とする目標を掲げ観光立国へ踏み出しました。ちなみに世界の観光大国フランスは、年間外国人旅行者は約8300万人を超え世界第1位です。第2位はアメリカで約6700万人、第3位は中国で約5770万人です。日本の順位は推定で30位ぐらいになるそうです。日本の魅力はまだまだ世界に十分発信出来ていません。●日本の魅力を十分に発信出来ていない主な理由をどのように分析され、北区の魅力発信に生かされていくのでしょうか、お答え下さい。

2月7日、NHKまち歩き番組「ブラタモリのプロデュース」尾関憲一氏を講師に招き観光シンポジウムが北とぴあで開催されました。ブラタモリのヒットプロデュースの観光シンポジウムと言うことで会場は満席、参加者の熱気に包まれていました。

シンポジウムで「見方をちょっと変えるだけ
で、見えてくる面白いものは、身の回りにた
くさんあります。」「日常の中で周りを注意深
く、観察する気づきが、ヒット企画につなが
る」と、いつけん観光資源に乏しく観光に全
く関係ないように見える北区でも、見方をち
よっとだけ変えて見るだけで北区にしかない
まちの魅力* * * 例えば田端・尾久のまち
が鉄道ファンの憧れの聖地だったり、気づか
なかつた普段のまちの姿が観光資源になると
言うことを気づかせてくれた楽しいシンポジ
ウムでした。
私は、このシンポジウムで、観光による「ま
ちおこし」の基本は、そこに住む住民がまず、
まちの魅力を発見し、そのことを誇りに持ち、
来訪者に語ることだなと思いました。
そのような思いから、観光協会設立について
質問します。

● 観光振興のため観光協会設立に向けて平成
26年度に観光基本計画を策定するそうです

が、行政予算を使ってまで、観光協会設立の検討をする根拠を示して頂きたい。

●平成27年度に観光協会が設立される仮定として、その事務局長には是非コーディネート力を持つとして北区の「まちおこし」のため力を十二分に発揮していただきたいと思えます。

また事務局長の人材を公募などで広く全国から求めるべきだと考えます。

事務局長の公募について区の見解を伺います。

3の(3)シティプロモーションについて質問します。

平成22年4月足立区は23区初の「シティプロモーション」を政策経営部広報室に設立しました。シティプロモーションにかけ足立区の本気度は、敏腕の広告マンを民間から登用し、シティプロモーション課長に抜擢しました。これにより足立区は、プロモーション活動を広く展開し、防犯等でネガティブに語られることもある足立区のイメージ

アップをねらうそうです。

北区のシティプロモーションについて、北区

の本気度をお聞きします。

以下3点についてお答えください。

① シティプロモーションとは何か、お答え下さい。

② 北区のシティプロモーションの目的は何か、お答え下さい。

③ シティプロモーションの区政における位置づけについてお答え下さい。

3の(4)魅力ある王子駅周辺について質問します。

魅力ある王子駅周辺の再生整備を進めるためには、中期・長期の俯瞰的な視点でコンパクトシティの形成をめざし、これまで整備された都市基盤のストックを活用し、高齢者や子育て世代への行政サービスを提供を効率的に実行できる「まちづくり」を進めることが重要と考えます。魅力ある王子駅周辺再整備

のため、次の5点を提案します。

① 王子駅の大規模改修で複合施設化した駅舎の建設。


② ユニバーサルデザインで王子駅周辺のバリアフリー化を推進。

③ 都心部の川として、水質改善しアメニティ資源としての石神井川の実現。

④ 都電のLRT化と路線の延伸ならびに都電軌道敷地の芝生による軌道緑化でヒートアイランド現象の緩和を促進。

⑤ 民間活力で飛鳥山公園の大規模改修の執行で良好な景観の獲得。

以上あげた提案事例を検討していただき王子駅周辺まちづくりの着工スケジュールも含め、区の見解を伺います。

3の(5)北区ホームページ  サイトの充実について質問します。

流山市は、税収の約5割が住民税で、その多くは個人住民税が占めています。市の税収

構造は少子化の影響を大きく受けるため、ファミリー世代の住民誘致を積極的にマーケティング手法の新しい発想で各方面に働きかけ、母になるなら流山「父になるなら流山」との自治体PRポスターを作成し駅や電車内に張り出したり、ホームページの充実に励んでいます。

●ホームページでの流山市のファミリー世代への取り組みについて北区の見解を伺います

●ホームページのリニューアルに際し、時代動向や住民ニーズを勘案し方向性と戦略性を持たせ更新刷新を進めながら、WEBサイトの充実を図るべきです。その視点からホームページ・リニューアルプランを作成すべきだと思いますが、区の見解をお聞きします。

以上で質問を終わります。

ご静聴、誠に有り難うございました。